

取材日：2020年1月15日



糖尿病



東葛北部医療圏

## 透析医療で地域を支えるクリニックが「糖尿病センター」創設でいっそうの貢献を。

### Point of View

- ① 充実した合併症診療体制とチーム医療、安らぎのある療養空間で、安全かつ快適な透析医療を追求
- ② すべての透析患者の血糖コントロールを糖尿病専門医が管理
- ③ 合併症を含めた専門的治療と患者教育を外来で完結できる「糖尿病センター」を開設

医療法人社団中郷会新柏クリニック  
院長

木村 敬太先生

医療法人社団中郷会新柏クリニック  
糖尿病・代謝・内分泌科

坂本 敬子先生

医療法人社団中郷会新柏クリニック  
総師長

小池 和子氏

医療法人社団中郷会新柏クリニック  
看護師

加藤 理恵子氏

### 開業して以降、一貫して 質の高い透析医療を提供

専門的な透析医療を提供するクリニックとして地域で知られる新柏クリニック。質の高い透析医療を提供するとともに、保存期の腎症や糖尿病の治療体制も充実させてきたが、2020年4月に「糖尿病センター」をオープンさせ、それらの機能をさら

に強化すると聞き、現地へ取材にうかがった。

まずは、同クリニックが1991年に開業して以降、一貫して追求してきた質の高い透析医療について院長の木村先生が語る。

「質の高い透析医療の絶対条件は、安全であること。たとえば、透析を週3回受ける患者さんは、1年間で156回の透析を繰り返すことになり

ますが、それらすべてが安全に行われて、初めて1年を健やかに生きられるのです」（木村先生）

「安全」に「快適」が加わったのは2016年、透析ベッド総数120床という現在の本館が新築移転されたときだ。

「患者さんの増加にともない本館の規模を拡大して移転する計画を進めていた折りに、前院長が耐火性にす



左から木村先生、坂本先生、小池氏、加藤氏

ぐれた木の素材（耐火集成材）と出合ったのが発端です。

従来の木材は耐火性の問題で、大型建造物での使用は建築基準法により厳しく規制されていましたが、耐火性を高めることで当院の規模でも使えるような木の素材が開発されていたのです。これを使えば、透析をしている約4時間、患者さんが木に囲まれ森林浴をしているような気分ですごせると、設計プランを切り替えました」（木村先生）

新しいクリニックには木の香りが立ち込め（【写真1】）、透析室の大きくとられたガラス窓からは緑豊かな庭が一望できる（【写真2】）。

【写真1】

木材を使用した本館



## 安全な透析医療を支える体制づくりに尽力

質の高い透析医療の絶対条件である安全。同クリニックでは、安全な透析を行うため、具体的にどのようなことを行っているのか。

「ひとつは、チームで患者さんを守る体制づくりです」と話すのは、総師長の小池氏だ。

「透析室では、医師、看護師、臨床工学技士、事務職などのスタッフがチームとして患者さんにかかわり、安全に透析を受けていただけるよう心がけています。

透析は、午前、午後、夜間の3クールで行っていますが、各クールが始まる前にスタッフでブリーフィングを行い、患者さんの情報を共有してから透析をスタート。もし、透析中に何かあれば、スタッフが連携して対処するなど、チームで患者さんの安全を守っています」（小池氏）

木村先生は、「もうひとつは、透析の患者さんの心血管合併症発症に適切に対応できるための循環器専門医の配置でしょう」と言う。

「透析の患者さんは、合併症を発症するケースが少なくありません。そして、死亡につながる合併症では、心血管合併症がもっとも多く、心不全、心筋梗塞、血管障害で3割を占めるため、循環器専門医の存在は、安全な透析を行うには必須と考えられます。

当クリニックでは週3日、循環器専門医が非常勤で勤務してきましたが、4月からは常勤医師の配置が決まっています。心血管合併症は緊急を要することも少なくないので、院内に循環器専門医が常駐しているのがベスト。間違いなくリスクの軽減になるはずですよ」（木村先生）

## 糖尿病専門医が全透析患者の血糖値を一元管理する

さらに、透析患者の多くは糖尿病に起因しており、安全な透析治療には適切な血糖管理が非常に重要だ。常勤の糖尿病専門医である坂本先生に透析患者に対する血糖管理の体制について聞いた。

「当クリニックでは数年前から、糖

尿病専門医の私がすべての患者さんの血糖値を管理する体制をとっています。特に、糖尿病の患者さんについては、1ヵ月に一度透析中に回診（以下、透析回診）を実施。検査値などを確認しながら患者さんの状態を把握し、血糖をコントロールしています」（坂本先生）

看護師の加藤氏は、糖尿病療養指導士の資格を持ち、坂本先生が透析回診を行う際には同行してサポートにあたる。

「透析回診終了後には、治療がどのように変更されたか透析室の看護師に申し送りをを行い、情報を共有する

【写真2】

本館の透析室



【写真3】

### 糖尿病センターの外観



ことで、互いに経過観察に努めるようにしています」(加藤氏)

坂本先生は、同クリニックで働くようになって糖尿病治療についての考えが一変したと話す。

「合併症の予防が命」の糖尿病医にとって、その終末像とも言える透析は、できれば目を背けたい存在でした。敗北感を覚えつつ、治療を透析医に引き継いでいきましたが、当クリニックに来て、それではいけないと

教えられました。

血糖コントロールが不良だと感染症にかかりやすく、腎臓以外の合併症である、網膜症や神経障害、血管障害もさらに悪化します。患者さんの糖尿病との闘いは透析になっても終わりではない。糖尿病医として、ずっと患者さんに寄り添うべきだと考えるようになりました」(坂本先生)

続けて語られた坂本先生の言葉には、心打つものがあった。

「糖尿病の患者さんが透析になると透析の前後で血糖の変動が激しくなり、思わぬところで低血糖をきたすなど、さまざまな変化が起きます。それらを考慮しながら血糖コントロールをすることが必要で、通常の治療にくらべ、かなりの労力を要します。

また、透析導入後、さまざまな合併症を抱えた患者さんの痛みを共有

するのは心苦しく、たいへんな面が多々あるのは確かですが、それ以上に最期まで患者さんとともに歩めるのは、医師として幸せなことだと思います」(坂本先生)

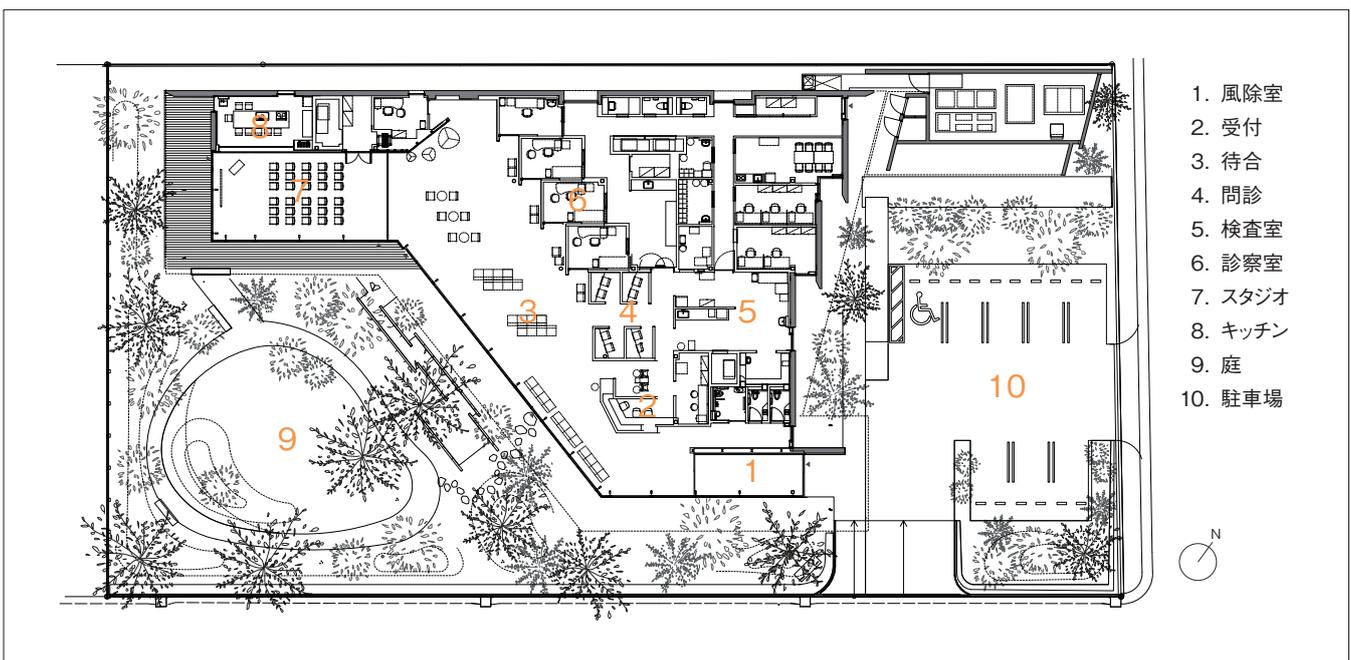
透析になった糖尿病患者が、糖尿病専門医による治療を継続して受けられるのは、間違いなく同クリニックの強みだ。

### 糖尿病センターを新たに開設 治療や療養指導を外来で完結

冒頭で触れたように、同クリニックでは2016年までクリニックの旧・本館があった跡地に糖尿病センター(以下、センター)を新築した(【写真3】)。前院長の「ますます増える糖尿病患者の受け皿が必要だ」との考えを反映した結果だと聞き及んだが、糖尿病治療の重要性を深く理解する同クリニックが打つ次の一手と

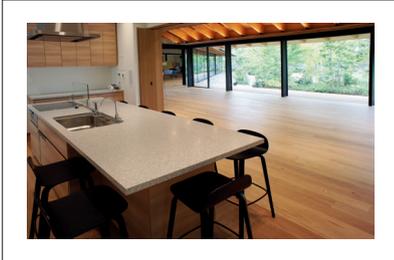
【資料】

### 糖尿病センターの平面図



【写真4】

糖尿病センターのキッチン



して、きわめて自然な施策だと言えるだろう。

同クリニックは、すでに、地域の医療機関から保存期腎症や糖尿病の紹介患者を広く受け入れてきたが、新設するセンターでは、健診で受診をすすめられた人など、より広く患者が受診しやすい治療体制をめざして、外来の診察室のほかに、キッチンやスタジオなどを併設する（【資料】）。センターを中心になってけん引する坂本先生が、コンセプトを解説してくれた。

「スタート時は、私と看護師3名、栄養士1名で運営しますが、将来的には、循環器内科、眼科などの専門医と協力して合併症治療に対応できるセンターをめざします。さらに、キッチンで食事療法（【写真4】）、スタジオで運動療法（【写真5】）といったように、それぞれの患者さんに必要な教育や指導も実践できる、つまり、『患者教育、糖尿病の治療から合併症の対応にいたるまですべてを1ヵ所で完結できる』がコンセプトです」（坂本先生）

センターは、入院ベッドは持たず外来のみ。外来で食事や運動などについても指導し、患者が日常生活の中で少しずつ学びを実践できるよう導いていく方針で、医師と看護師、栄養士がチームとなって、時間をかけて丁寧に患者に向き合う。

「以前、病院で勤務していたときは患者さんにしっかり指導をしたくても時間がなく、それができないストレスがありました。

センターでは、診療までの待ち時間を使って看護師、栄養士がじっくり患者さんの話を聞き、日常の様子を把握します。それをもとに医師が患者さんを診察し、結果を再びフィードバック。その時点で、医師の説明を看護師がもう一度噛み砕いて説明することもできますし、もし食事に問題があれば、すぐに栄養士による指導が可能です」（坂本先生）

糖尿病センターの稼働により  
透析患者の減少に期待

センターが開設され、各人には新たな展望が開けてきたようだ。

「センターがスタートすると、透析室との連携が必要になりますので、私は架け橋のような立ち位置で、双方の診療レベルの向上をサポートしていきます」（小池氏）

「本館同様に、センターも木のぬくもりが感じられる親しみやすいデザインとつくりになっているので、ぜひ地域の方々が糖尿病に関して気軽に相談しに来られる場所にしたいですね」（加藤氏）

「センターが、コンセプトどおり栄養、運動指導、合併症の治療まですべてに対応できる施設になったら、地域の病院と診療所の中間的な役割を果たせるようにしたい。かかりつけ医の先生方が、より身近に紹介でき、かつ入院適応の患者さんには、病院への入退院前後の橋渡しやサポートができる、そんなセンターにしたいと思っています。

そのために、かかりつけ医の先生方を対象とした糖尿病の勉強会を開催したり、料理や運動の講習会を企

【写真5】

糖尿病センターのスタジオ



画するなど、地域の医療連携の輪を広げる活動も手がけていくつもりです」（坂本先生）

「坂本先生も述べられていたように糖尿病の患者さんが透析になると、合併症が非常に多くなる、生命予後が良くない、そのうえ透析中は血行が安定しないため血圧が下がりやすいなど、さまざまな困難な場面に直面します。大げさでなく、糖尿病の透析患者を減らすことはみんなの願い。センターで糖尿病初期から腎不全を抱えた患者さんまでを幅広く診療し、結果、私たち透析医が“暇”になってしまうくらい、周辺地域全体の糖尿病の透析患者が減少することを期待しています」（木村先生）

センターの稼働によって、この地域の糖尿病医療の質が上がり、最終的には、透析医療も大きく様変わりしていくに違いない。

医療法人社団中郷会  
新柏クリニック

〒277-0084  
千葉県柏市新柏1-7  
TEL：04-7164-8600

医療法人社団中郷会  
新柏クリニック糖尿病みらい

〒277-0084  
千葉県柏市新柏1-4-5  
TEL：04-7199-4771